

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270800036		
法人名	有限会社夢無限		
事業所名	グループホーム夢無限おおひと	ユニット名	い組
所在地	静岡県伊豆の国市田京929-5		
自己評価作成日	平成24年1月31日	評価結果市町村受理日	平成24年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2270800036&amp;SCD=320&amp;PCD=22">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2270800036&amp;SCD=320&amp;PCD=22</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成24年3月26日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居されている方々が生きがいを持って暮らせるようにと、さまざまな取り組みを行っている。ご家族と連携しながら一人ひとりの性格や生き方、暮らし方を把握し、好んで出来ることなどを見出し、家事や趣味活動などに参加していただけるよう支援している。家事活動への参加希望者が多く混乱するため、役割の当番表を見やすい場所に掲示するなどの工夫をしている。気の合うもの同士が笑顔で食事の準備や片付け、散歩に出かけたり、一緒に入浴したりされている姿に職員も癒されている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

まずホーム全体が真摯な姿勢で外部評価に取り組まれたことを評価したい。利用者主体・自立支援の方針は、経年によるADLの低下の中にあっても利用者の力を引き出して、編み物を復活させたり、野菜の下ごしらえから洗面台磨きまでエプロン姿でマイペースながらも発揮できる支援でグループホーム本来の姿を見ることができた。「ツルカメ委員会」や「ツルカメ合唱団」等役割を持つことが利用者の元気を導くことを全職員が明確に理解している。おやつ前の夢体操では、全員がニコニコ顔で参加していた。職員が家族の来訪を歓迎し、利用者個々の暮らしが尊重されていることに家族からの評価も高い。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人ひとりの暮らし方を守ること。地域との関わりを大切にすること。いつも笑顔があふれるホームをつくること。」を常に念頭におきながら日々の暮らしの支援をしている。	「一人ひとりの暮らし方を守ること。地域との関わりを大切にすること。いつも笑顔があふれるホームをつくること」は職員が作った理念である。どうしたら笑ってもらえるか、利用者の世界に入り込んで考える主体制を持った取り組みをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。地域の会合に出席し回覧板を回してもらったり、祭りに出かけたりホームの行事に招待するなど日常的に交流している。	自治会に加入しており相互の行事に招き招かれている。近隣の高齢者家族からの相談に応じたり、花や野菜をいただいたり、地域の方々と交流している。訪問当日には近所の子供たちが遊びに来ていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々全員参加される総会において認知症を分かり易く説明したパンフレットを配布したりその場での相談などに応じている。またいつでも相談に応じる体制があることをアピールしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの現況とサービスへの取り組みについて報告したり、地域の方や行政に相談ごとをなげかけアドバイスをいただきながらサービスの向上に活かしている。	民生委員や家族・入居者代表・市役所職員、職員代表等が出席して、行事を絡めて2ヶ月毎に開催し、ホームの現状と取り組みの理解していただいている。直近では消防署の協力でAED操作や異物除去法を学び異物除去法はすぐに役立った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢者支援課や地域包括センターが主であるが防災関係において安全課の担当者とも関わることも多い。	利用者の生活や介護保険認定について、またホームの利用者状況や防災等、必要に応じて市役所に出向き、ホームの実情を伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年恒例の事業所全体の研究発表会の議題が「虐待防止」であったため研修班が主になり身体拘束を含めての勉強会を職員全員で行ない、発表会に参加することによりさらに知識を深めることができ実践につなげている。	虐待防止の研究発表の際に、全職員で虐待・拘束について学び、広義の身体拘束のないケア実施に役立っている。危険防止のためやむを得ない場合の措置は家族と相談している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を見逃すことがないように入居者の状況の変化、サインについての見分け方などを学んでいる。職員同士が連携し情報交換や話し合うことが大切である。意見(投書)箱を設置し気付いたことを投函する方法も試みている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている入居者がいるので、制度の内容の確認をしながら対応や支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文章と口頭で説明を行い、質問や疑問については適切な対応と十分な説明により納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各相談窓口について入居時に説明しているが、身の回りの世話を主にしている担当職員と家族とは日頃の関わりが多い為、意見や相談がし易くなっている。内容については管理者や職員同士で共有ながら運営に反映している。	身体やADLの状態、暮らし方の課題等を細かに記した入居状況報告書を担当職員から毎月家族に送付して、信頼関係を築き、状況を理解したうえで意見を引き出している。利用者主体のツルカメ委員会の意見も反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日々のミーティングや各会議の中で必ず職員の意見や提案を聞く時間を設け、必要により代表者に報告している。	ユニット会議で職員からの提案や意見を聞いている。職員も積極的に意見を述べて運営の向上に資している。必要に応じてアンケートを実施したり、全体会議に上げて本部へ諮る等職員意見が反映できるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与や手当に関する規定があり賞与や特別手当、福利厚生面にも配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながら資格を取得することを奨励している。事業所独自の研修や外部の研修には各職員の力量をもとに毎年参加しケアの実践に活かしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	主として入居面談時に職員が交代で他施設の見学を兼ねて訪問している。管理者と職員は地域全体のケア会議の勉強会や研修に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	これまで関わってきた事業所の担当者からもアドバイスを受けながら医療、メンタル、身体機能などを考慮し、時間をかけて本人や家族の想いに耳を傾けるなど、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の状況や家族との関係の中で困っていることや不安なこと、要望などを聞きながら今後の方向を家族と共に考えたり、提案することにより安心していただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が最も必要としている支援を優先し必要に応じて他のサービスの導入も試みている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にする中で入居者から学ぶことが多い。職員からも相談を持ちかけたりする関係の中で入居者が自分の喜怒哀楽を表出する場面も多く見られる。日頃から喜びや悲しみを分かち合う光景がよくみられる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から家族とは連絡を密にしている。文章や口頭で状況報告をしたり、家族からの情報をもとにケアサービスの向上を図っている。面会や外出、外泊を奨励するなど本人と家族との絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外食、誕生会への参加、盆正月の里帰り、冠婚葬祭、墓参り、兄弟会などの参加を奨励しており、本人は満足されている。	日常的には、希望する馴染みの商店街へ行ったり、住んでいた場所を訪ねている。また家族と連携して外食や宿泊、家族行事の参加を促しており、利用者の大切な人々との関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の人間関係を把握し、食事席や集団活動の場において無理なく過ごせるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も連絡を取り合い本人や家族の支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人のことばや表情、関わりのある職員や家族からの情報をもとに意向の把握をしている。	利用者の所作の変化や会話のポイントを、職員が申し送りノートや介護日誌に書き留めており、ミーティングやカンファレンスで検討して意向に沿った暮らしが実現できるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、これまで関わった人たちから暮らし方やサービス利用の経過を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	主治医の意見や職員間の情報交換をもとに、その人の心身の状態を理解することができる。共同生活を送る上でさまざまな場面を提供しながら現有能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の希望をもとに、課題と必要なケアについて職員間で話し合いながら介護計画を作成している。	利用者担当職員が、課題シートに本人や家族の希望・現在の問題点・原因・支援方法を記入し、毎月のカンファレンスで他の職員の気づきやアイデアを検討し、それを基に3か月毎に介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、日報、医療、服薬帳に日々の様子や変化、気づいたことなどを記入し情報を共有している。会議において個別ケアについての話し合いを行い実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに合わせさまざまな支援を行っている。本人と共に空き家になった自宅を訪れ近所の方々に声をかけたり、生まれ育った故郷へドライブしたりと、本人や家族に喜んでいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区報、隣組の回覧による地域のできごとの把握、演芸のボランティアの訪問、消防団の巡回、駐在所の見回り、行政職員、民生委員など地域の多くの方々に守られながら安全で楽しみのある暮らしを送ることができている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の家族や本人の希望によりかかりつけ医に受診している。かかりつけ医には本人の状態や薬に関する情報を提供しながら指示を仰いでいる。	かかりつけ医受診は利用者や家族の要望に沿っている。事業所提携医の24時間支援と毎週訪問看護体制で支援している。	歯科医の訪問診療提携で利用者支援を期待します。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師には日常的に心身の健康に関することや医療面の相談をしている。(入居者とも顔なじみになっており、自ら心配事を投げかける方もいる。)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	相談員や看護師との関係づくりには日頃から配慮しているので相談しやすい関係になっている。入院中もお互いに情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化対応と終末期ケアについての指針を文章と口頭で説明し、同意をいただいている。地域の事業所とは日頃から連絡を取り合うなどの協力体制ができている。	ターミナルケアの対応を提携医と共に家族に説明している。家族だより同封の状況報告書にバイタルレコードを記載し、方針を情報共有している。また緊急時の病院搬送体制を整えている。	終末期の対応説明の際、利用者や家族の確認の記録化が望ましい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の災害避難訓練、消防職員による怪我や窒息などの応急処置の研修(実習)に職員は積極的に参加し知識を身に付けている。急変については常日頃体験しているため、職員同士の協力体制ができている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員の連絡網があり、避難訓練時に入居者の誘導訓練を繰り返している。消火器、スプリンクラーや火災通報装置の取り扱いについても職員は理解している。災害時には地域の消防署や行政と連絡を取り合っている。	夜間を含む年2回の災害訓練を実施し、学んだ応急処置が実際に役立っている。職員主体の環境整備委員会が企画運営している。	近隣地域との普段からの繋がりによって、災害支援・避難所としての役割などの協働関係を深める様に期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失礼のないように、ことばかけや対応に気を付けている。個人記録には本人以外の実名は使用していない。	利用者排泄時の声掛けも周囲に気付かれぬ様に心掛けている。利用者の生きて来た誇りを理解し、尊厳を大切にしたい支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の心身の状況を把握しながら、希望や想いを伝えやすいようなコミュニケーションをとっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の心身の状況や希望を優先して参加を促すなどの支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度訪問美容があるが、本人が希望の髪型を注文している。いきつけの美容院に出かける人もいる。洋服や化粧品などは家族や職員とともに気に入ったものを購入している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みに合わせた献立をもとに入居者と職員と一緒に準備や片づけをしている。希望者が多い為、役割分担表を作成し、分かり易いように掲示している。	利用者が職員と一緒に餃子などを作る喜び、食事を通じた会話、皿洗い茶碗拭きなど後片づけに参加する機会を設けている。レストランや寿司店などの外食に出掛ける楽しみもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食形態は個々に対応している。水分量と食事量は記録に残し不足(過剰)時に注意をはらい、その人に合った対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。声掛けや見守り、介助を個別に行っている。就寝前に義歯を預かっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の個々の排泄状態を記録しパターンを把握している。精神面を考慮し失敗を防ぐために、時間毎の誘導や声掛け、見守りの支援をしている。夜間はPTイレを使用することで失敗が減っている。	利用者個々人の排泄頻度をバイタルチェック表で把握し、時間でトイレ誘導をしたりして自立支援に回っている。職員主導の排泄入浴管理委員会が改善に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による弊害を職員は理解している。水分不足や偏食を防ぎ快適な排泄が出来るように、繊維質の多い食材を取り入れた献立の工夫、十分な水分補給、適度な運動と精神面のケアの支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を楽しんでいただくために仲の良い人との入浴や個々のタイミングに合わせた曜日や時間に配慮している。	週2回の入浴を実施、入浴嫌いな利用者に2人入浴を試みたり、シャワー浴や足湯などの機会を作って支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣や希望、心身の状態により休息や昼寝を奨励している。消灯時間は一応定めてはあるが日によっては遅くまで仲間や職員と談笑したりテレビを楽しんだりされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時の薬の説明書とホーム独自の服薬表をもとに個々のくすりについての理解をしている。服薬時には職員2名で読み合わせを行い本人にも確認していただきながらの飲み込みまでの支援をしている。症状の変化の確認は常時行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生き生きと過ごしていただくために、調理、食器洗い、食器拭き、掃除、洗濯たたみなどの家事や編み物、歌の指導、人形作り、裁縫、外出などの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により自宅や馴染みの商店、ドライブ、温泉場の足湯、みかん狩りに家族や職員と出かけている。冠婚葬祭に参加される方もいる。	近隣の寺や花畑に散歩したり、外食を兼ねて外出を寄り添うように支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の希望により職員が同行し、本人は好むものを購入している。希望により外食することもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の希望により電話の取次ぎや手紙の代筆をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴室、トイレは分かり易い表示をしている。フロアーには時計、カレンダー、季節感のある作品などを掲げている。馴染みのある唱歌や童謡を聴きながら思い思いに過ごされる。室温、換気などには気を配っているが、冬は陽だまりを求めて他のユニットに移動し大勢で談笑されている。	天井吹き抜けの広い居住空間の中で、食事や折り紙・ゲーム・体操など利用者が共同して楽しく居心地良く生活できる場づくりの支援をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは気の合う人同士が世間話をしたり、思い出の写真を持ち寄ったり、お茶を飲みながら楽しく過ごされている。「自室では寂しいから」と和室で昼寝をされる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた食器、時計、鏡台、物入れ、椅子、クッション、洋服、靴、趣味の道具などを持ち寄っていただくことにより居心地よく過ごせるように配慮している。	手芸やキルト・折り紙・ぬいぐるみ・写真・貼り絵で部屋を飾ったり、利用者の今までの生活流儀をそのまま活かすなど、個性を尊重した居心地良い居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱を防ぎ安全に過ごせるよう、個々の状態により居室や食堂席の位置に気を配っている。また夜間はポータブルトイレを使うことにより排泄失敗や転倒を防ぐなどの工夫をしている。		

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270800036		
法人名	有限会社夢無限		
事業所名	グループホーム夢無限おおひと	ユニット名	め組
所在地	静岡県伊豆の国市田京929-5		
自己評価作成日	平成24年2月12日	評価結果市町村受理日	平成24年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2270800036&amp;SCD=320&amp;PCD=22">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2270800036&amp;SCD=320&amp;PCD=22</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成24年3月26日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居されている方々のこれまでの暮らし方や想いを尊重しながら、それぞれの方が生き活きとすこせよう個別の支援に努めている。大半の方はホールで過ごされているが、自室で読書や縫い物、書写、テレビ鑑賞、手芸をされている方もいる。家事活動は希望を優先した役割分担表をもとに職員と共に活発に行われている。両ユニットの交流も盛んで合唱練習や外気浴を希望される方が多く一緒にお茶を飲みながら談笑されている場面も多く見られる。おやつの前にはホーム独自の「夢体操」を全員で行うことが日課となっている。外出や買い物の支援も日常的に行っている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有しながら日々実践している。近隣の人や子供たちを敬老会に招待したり、散歩で知り合った地域の人が花を届けてくれたりなど地域との関わりを今後も大切にしていきたい。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入している。会合に出席し意見交換をしたり、回覧板により地域の情報を得ている。祭りに出かけたりホームの行事に招待するなど日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々が全員参加される総会において、認知症を分かり易く説明したパンフレットを配布し相談にも応じている。またいつでも相談を受け入れる体制があることをアピールしている。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの現況とサービスへの取り組みについて報告したり、地域の方や行政に相談をなげかけ、アドバイスをいただきながらサービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢者支援課や地域包括センターが主であるが防災関係において安全課の担当者とも関わることが多い。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所独自の研究発表会の議題「虐待防止」の勉強会において「身体拘束」についても学ぶ機会があった。発表会に参加し習得した知識を玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を見逃すことがないように入居者の状態の変化やサインについての見分け方などを学んでいる。職員の連携体制、情報交換を大切にしている。意見箱を設置し気づいたことを投函する方法も試みている。	/	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている入居者がいるため、制度の内容を確認しながら支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文章と口頭で説明を行い、質問や疑問については適切な対応と十分な説明により納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各相談窓口については契約時に説明している。日頃は身の回りの支援をしている担当職員へ相談を持ちかけるケースが多いが対応については職員全員で検討し運営に反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は会議や日頃のミーティングにおいて職員の意見や提案を聞く時間を設けている。必要に応じて代表者に報告している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与や手当に関する規定があり、昇給や賞与、特別手当、福利厚生面にも配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながら資格を取得することを奨励している。事業所独自の研修では議題についての研究発表に向け学びながら取り組んでいる。外部研修には必要に応じて参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	入居面談時に職員が交代で他事業所を訪問し交流を図っている。地域ケア会議には管理者のみでなく職員も参加することがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	医療、メンタル、身体機能、認知の状況などを考慮しながら、時間をかけて本人の想いを受け入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていることや不安なこと、要望などを聞きながら、今後の方向性についての話し合いを重ねることにより安心していただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が最も必要としている支援を優先し必要に応じて他のサービスの導入も試みている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	繕い物をお願いしたり料理の作り方を教わったりなど、本人の得意なことを発揮していただきながら共同生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から家族とは連絡を密にしている。文章や口頭で状況報告をしたり、家族から情報を得てケアサービスに活かしている。面会や外出、外泊を奨励するなど本人と家族の絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、知人にはお茶を飲みながらゆっくりと面会できるよう配慮している。本人の希望により自宅の様子を職員と共に見に行きながら近所の親しい家を訪問することもある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合うもの同士が気楽に過ごせるよう、食事席やゲーム、家事活動の組み合わせに配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族が退居後の様子を知らせてくれたりこちらから連絡をして訪問することがあり必要に応じて相談や支援をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の想いを把握するために、家族、知人、関わった事業所からの情報を参考にしているが本人のことはや表情からも伺うことができる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族などからこれまでの暮らし方やサービス利用についての情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の状況を個別記録、介護日誌、食事、水分、排泄、バイタル表に記録している。朝礼、申し送り、ケア会議で情報交換をしながら把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状及び問題点、その原因と理由、具体的支援方法を本人や家族の要望をもとに主治医の意見、職員間の話し合いなどを経て介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送りノートを活用しながら実践や見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズによりさまざまなサービスを行っている。冠婚葬祭への出席、外泊、買い物、特別な嗜好品の発注など。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察や消防団の巡回、災害時に備えての行政との連携など日頃から地域の方々の支援をうけながら安全な暮らしを確保している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望のかかりつけ医より適切な医療をうけている。かかりつけ医には本人の状態を報告したり指示を仰いでいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師には日常的に健康管理や医療面の相談をしている。看護師と職員、入居者は顔なじみの関係にあり相談し易い体制ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員、婦長などと連絡を取り合いながら治療の経過や退院の見込みなどについての情報を得ている。近辺の病院の相談員とは日頃から関わるが多い。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化対応と終末期ケア対応についての説明をしている。本人や家族の要望を伺いながら地域との関係者とともにより良い方向への支援をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃のわずかな状態の変化についても職員間で情報交換をしている。事故発生や急変時の対応について職員全員が理解できる体制ができており日々実践している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署に協力を依頼し防災訓練を行っている。台風や大雨、地震に備え行政や消防署に相談や連絡をしながら対応している。対応についての話し合いもその都度行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	難聴の人が多く、職員の表情を先に理解するため気持ちを込めた言葉かけをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々のさまざまな表現の仕方を把握しながら、思いや希望を自由に表すことができるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を優先しながら過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容師に髪型を注文したり、好みの洋服やアクセサリーを身につけて過ごされている。職員は衣替えのお手伝いをしたり、洋服選びや引き出しの整理、探し物などを入居者と共に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは個々の希望を優先し分担しながら職員と共に毎日行っている。分担表を作成することにより混乱することなく活き活きと活動されている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事と水分量を記録し不足している場合は原因や習慣などを考慮しながら補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛け、見守り、介助などを行っている。夜間は義歯を預かっている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の排泄状況を個別に記録している。一人ひとりのパターンを把握しながら声掛けや誘導を行っている。尿意、便意のない方もトイレに誘導している。夜間はPTトイレを使用することで失敗を防ぐと共に自立を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況は毎日記録しているが便秘により不穏になることを防ぐために、食事の工夫や十分な水分摂取、適度な運動、精神面のケアの支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望やタイミングを優先し入浴を楽しんでいただいている。気の合う人同士が笑顔で浴槽につかっている光景がみられる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日を通してさまざまな休息の仕方があるため個別に対応している。「昼寝中」のカードを居室入口に掲げたりカーテンで遮光するなど。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書とホーム独自の服薬表、上申ノートにより薬の理解ができている。服薬は職員同士で読み合わせ、飲み込むまでの支援と確認を常時おこなっている。変化にも注意をはらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	縫い物、折り紙、掃除、洗濯、食事の片付け、人のお世話が好きな方など様々な方がいる。楽しみごとをしながら生き生きと過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃は希望により日用品や衣類の買い物に職員とでかけている。家族や知人と外出されたり冠婚葬祭に出席される方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日頃はお小遣いを持って職員と買い物にでかけているが、少なくなると本人も不安になるため家族に連絡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎや手紙の投函などの支援を日常的に行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな時計とカレンダーを掲げ、ホールには季節の生け花や四季の作品を飾っている。浴室、トイレの入口はのれんなどで分かり易い表示をしている。台所からは料理の臭いが漂っている。好みにより音楽を流したりテレビを楽しんでいただいている。室温、湿度、換気にも配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室で新聞を読んだり、気の合う人同士で世間話をしたり、好きなテレビ番組を見るなど過ごし方はさまざまであるが、食事の席や家事活動、集団活動のグループ分けなどに配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた鏡台、テーブル、椅子、寝具、趣味の道具などを使用することにより自宅と同じように過ごしていただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	特に居室の位置は個々の状態を把握し、安全に過ごせるよう配慮している。手摺りや滑り止めマット、引き出しの表示、ポータブルトイレの設置など自立支援のための工夫を個別に行っている。		